

SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラムユーザーインタビュー

■AI パネル⑳

前田 (35) / 地方自治体職員

- 属性：石川県金沢市。広報担当。独身。
- 美容タイプ：美容液初心者
- 購入チャネル：大手ドラッグストア
- 購入の動機：地域の顔として人前に出る機会が増えた。反町さんの「年齢を力に変える」というコピーに感銘を受け、老け顔予防のために投資。
- 現状：周囲の同年代より肌が綺麗だと言われることが増えた。価格は張るが、これ一本でエイジングケアが完結するなら、トータルではコスパが良いと自分を納得させている。

<結果サマリー>

CMの「年齢を力に変える」姿に自分を重ね、「プロとしての自律の証」として肌のハリを求めた地方公務員広報担当

- 1. 美容についてのこだわり** 金沢市役所の広報として「地域の顔」である自覚が強く、身だしなみを公的な責務と捉えている。35歳を迎え、鏡や画面越しの自分に「使い古された感じ」や「土色の顔色」を感じ、プロ失格という危機感を抱いている。単なる若作りではなく、周囲に「仕事も私生活も充実している」と思わせるための「自律の証」として肌の張りを求めている。
- 2. 普段のスキンケアと目指す肌** 無印良品の安価な化粧水で土台を作り、夜のみ高級美容液を投入するメリハリ型。ベタつきを極端に嫌い、乳液は使用しない。目指すのは、夕方まで「パキッとした」健康的な状態を維持することである。彼にとって、良好な肌コンディションは、街の魅力を伝える際の説得力を担保するための「プロとしての装備品」に他ならない。
- 3. 現使用美容液購入経緯** 反町隆史氏のCMコピー「年齢を力に変える」に、自身の「老いへの不安」への回答を見出した。1万円超の価格に1ヶ月葛藤したが、店頭テスターで感じた「別次元の密度」と、1mL単価を計算した「1日150円の自己投資」という合理的な納得感が購入を後押しした。30mLではなく50mLを選んだのは、中途半端な試しを捨て、自身の覚悟に決着をつけるためである。
- 4. 現使用美容液使用実態と評価** 物理的に肌を持ち上げる丁寧な塗布を行い、それを「オンとオフを切り替える儀式」としている。5段階評価で「4」とした理由は、周囲から肌ツヤを褒められ、35歳の男としての自信を再構築できた点にある。残量不明への不安や高価格への畏怖はあるものの、それがかえって「自分を律している」という心地よい緊張感を生んでいる。
- 5. 今後の使用意向** 継続意向は高く、40代に向けた先行投資と位置づけている。現状のハリを失うことへの恐怖が強く、他ブランドへの浮気心は薄い。メーカーに対しては、機能性だけでなく「高い投資をする男性の決断を肯定し、支え続けるストーリー」の提示を求めている。彼にとってこの美容液は、外見の改善以上に、自己管理能力の証明となっている。

1. 美容についてのこだわり

インタビュアー：

本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は、前田さんが普段どのようなことを考えながら生活し、肌のお手入れと向き合っているのか、飾らない言葉で教えていただければと思います。まずは自己紹介として、お住まいのエリアや、今どのようなお仕事をされているか教えていただけますか。あわせて、スキンケアに限らず「美容」全般について、前田さんが日常でこだわっていることがあれば教えてください。

対象者：石川県の金沢市に住んでいます。仕事は市役所の職員で、今は広報の担当をしています。35歳で独身です。美容のこだわり……そうですね、正直なところ、そこまで「美容男子」という感じではないんです。ただ、広報という仕事柄、イベントの司会をしたり、地元のメディアの方と会ったり、とにかく「地域の顔」として人前に出ることが多いんですよね。なので、清潔感だけは損なわないように、髪型を月一で整えたり、アイロンの効いたシャツを着たりといった「人からどう見られるか」という最低限の身だしなみには気を使っています。

インタビュアー：広報として「地域の顔」でいらっしゃること、そのための「人からどう見られるか」という意識が身だしなみにつながっているのですね。

2. 普段のスキンケアと目指す肌

インタビュアー：

朝晩のお手入れのステップ、具体的に教えていただけますか。お使いのブランド名も含めてお願いします。

対象者：朝は無印良品の「導入化粧液」と「敏感肌用化粧水・高保湿タイプ」をパパッとつけるだけです。夜も基本は同じですが、最後に今回買った「SHISEIDO MEN のアルティミューン」を2プッシュ。ベタつくのが嫌いなので、乳液やクリームは使っていません。

インタビュアー：無印良品のあとに、いきなりアルティミューン。……その組み合わせに至ったのは、何か理由があるんですか？

対象者：うーん、極端ですよ（笑）。正直、今までは無印で十分だと思ってたんです。安いし、パシャパシャ使えるし。でも、35を過ぎてから、ふと鏡を見た時に「これ、現状維持もできてないんじゃないか？」って不安になって。

インタビュアー：現状維持もできていない、という不安。

対象者：ええ。広報の仕事で、カメラのフラッシュを浴びたり、動画に映ったりすることが増えて。自分の顔を客観的に見ると、同年代の活気がある奴に比べて、なんだか自分だけ「使い古された感じ」がしたんです。無印は悪くないけど、これだけで「戦える肌」になれるのかなって。

インタビュアー：戦える肌。

対象者：そうです。市役所の中だけならいいんですけど、外部の方やメディアの前に出る時は、やっぱり「この街の広報はちゃんとしている」と思わせるだけの、パキッとした張りが欲しくて。だから、土台は無印でもいいけど、一発、強力な「投資」が必要だと思ったんです。

インタビュアー：前田さんにとって、その「パキッとした張り」がない状態というのは、仕事においてどんなリスクがあると感じていらっしゃいますか？

対象者：……信頼感、ですかね。「疲れている人」から街の魅力を聞いても、説得力がないじゃないですか。自分が不摂生に見えることは、公務員として、広報として、プロ失格だと思っちゃうんです。だから「自分

を律している」という証拠が、肌に欲しかったんだと思います。

インタビュアー：プロとしての、自律の証。

対象者：はい。だから、ベタベタ甘やかすケアじゃなくて、肌の芯を強くしてくれるような、そういう手応えを求めているんだと思います。

インタビュアー：ありがとうございます。

3. 現使用美容液購入経緯

インタビュアー：

そんな前田さんが、この「アルティミューン」を具体的にどうやって見つけ、手に取ることになったのか、そのあたりの経緯を詳しく伺いたいと思います。まず、この商品の存在を最初に知ったのは、いつ、どんなきっかけだったのでしょうか？

対象者：……去年の夏前くらいだったかな。テレビCMですね。反町隆史さんが出ていたやつ。あれを見たのが最初です。松嶋菜々子さんと一緒に出ていて、「あなたは、変わらない」って言われているシーン。

インタビュアー：あのCMですね。初めて見た時、率直にどう感じましたか？

対象者：正直、「やられたな」と思いました（苦笑）。反町さんって僕ら世代からするとずっとカッコいい存在ですけど、CMの中で松嶋さんに「変わらない」って言われて、ちょっと照れたように笑ってるじゃないですか。それを見て、「あ、年齢を重ねるって、こういう風に『良い方向に』変わっていくことなんだな」って、妙に腑に落ちたんです。「若作り」じゃなくて「年齢を力に変える」というコピーが、今の自分の、広報としての悩み……さっき言った「使い古された感じ」への不安に、ダイレクトに刺さったんですよね。

インタビュアー：反町さんの姿とコピーが、前田さんの不安に刺さった。そこから実際に購入するまでは、どんな風に検討されたんですか？

対象者：すぐには買いませんでした。だって、1万円以上するじゃないですか。「化粧水にプラスして1万……？」って、やっぱり公務員の感覚からすると、かなり高い投資ですから（笑）。それから1ヶ月くらい、仕事帰りにドラッグストアに寄るたびに、メンズケアのコーナーをうろろしてました。スマホで「30代 メンズ 美容液 オススメ」とか、「アルティミューン メンズ 評判」とか、めちゃくちゃ検索しましたね。

インタビュアー：検索では、どんな情報を探していたんでしょう。

対象者：一番は「本当にこれ一本で効果があるのか」です。他の安い美容液……例えばギャツビーとかウーノのエイジングケア系と何が違うのか、比較サイトを読み漁りました。でも、どれを読んでも「結局は成分の濃度が違う」とか「資生堂の独自成分が～」って書いてあって。最後は、金沢市内のドラッグストアにあるテスターを、こっそり手の甲に塗って見たんです。その時の感触が、今まで使ってきたものと全然違って。

インタビュアー：全然違う、というのは具体的に？

対象者：なんて言うか……「密度」が違う感じ。ベタベタしないのに、塗った瞬間にピタッと肌に吸い付いて、シュッと引き締まる感覚があったんです。「あ、これは無印の延長線上にはない、別次元の道具だ」って確信したというか。それで、「これを毎日使えば、夕方のあの土色の顔を鏡で見なくて済むかもしれない」と思って、レジに持って行きました。

インタビュアー：別次元の道具。……ちなみに、前田さんはこれまでも美容液を使われたことはあったんですか？

対象者：いえ、全く。これが人生初の美容液です。以前は「化粧水だけで十分、男が美容液なんて贅沢だ」と思っていました。でも、さっきも言った通り、人前に入るプロとして、今の自分の肌は「手入れを怠っている証拠」に見えてしまって。「老けていくのをただ眺めるのか、それとも手を打つのか」という二択を

迫られた時に、反町さんのあの顔が浮かんで、「よし、投資しよう」って踏ん切った感じです。

4. 現使用美容液使用実態と評価

インタビュアー：人生初の美容液として選んだアルティミューン、実際に毎日使ってみていかがですか。使うタイミングや、肌への付け方などで、前田さんなりに意識していることがあれば教えてください。

対象者：夜、お風呂から上がって無印の化粧水をつけた直後に使っています。意識しているのは……「塗り方」ですね。以前は化粧水もバシャバシャ適当に叩き込む感じだったんですけど、これは高いものなので(笑)、手のひら全体に広げてから、顔の中心から外側に向けて、グーッと肌を持ち上げるようにして塗り込んでいます。

インタビュアー：グーッと持ち上げるように。……なぜ、その塗り方を？

対象者：やっぱり「ハリ」が欲しいからでしょうね。重力に負けたくないというか、物理的に「上がれ、上がれ」って念じながら塗っている感じです。特に、疲れが出やすい目の下とか、ほうれい線のあたりは、指の腹を使って少し圧をかけるようにしています。せっかくいい成分が入っているんだから、肌の奥までしっかり届けたいなって。

インタビュアー：成分を奥まで届けるような感覚。……では、今の満足度を5段階(5が最高)で評価するとしたら、いくつになりますか？

対象者：うーん、「4」ですね。

インタビュアー：4。その心はどのあたりにありますか。

対象者：まず満足しているのは、朝起きた時の肌の質感が明らかに変わったことです。以前は寝起きて顔がむくんでいたり、カサついていたりしたんですけど、今は指で押すと押し返してくるような弾力がある。職場の同僚からも「なんか最近、肌ツヤいいですね」って言われることが増えたんです。これ、35歳の男にとっては、めちゃくちゃ自信になるんですよ。

インタビュアー：自信になる。……逆に、マイナス1の理由は？

対象者：……やっぱり、値段ですよ。なくなるのが怖くて、たまに「今日は1プッシュでいいかな」ってケチっちゃう自分がある(笑)。あとは、容器が立派すぎて、残りがどれくらいあるのかパッと見で分からないのが少し不安です。

インタビュアー：なるほど。……前田さんにとって、このアルティミューンの「一番の魅力」を言葉にすると、どうなりますか？

対象者：僕にとっては、「自分を律するためのスイッチ」みたいなものですね。これを使っている間は、自分の外見を諦めていない、プロとしてちゃんと整えているんだ、という実感が持てる。ただの化粧品というよりは、明日また「街の顔」として戦うための、装備品に近い感覚かもしれません。

インタビュアー：戦うための装備品。

対象者：はい。鏡の前でこれを塗る時間が、オンとオフを切り替える儀式みたいになっているんだと思います。

インタビュアー：ありがとうございます。

5. 現使用美容液 今後の使用意向

インタビュアー：そんなアルティミューンですが、今後も使い続けたいというお気持ちを5段階評価(5が

最高)で表すと、いくつになりますか？

対象者：これも「4」ですね。

インタビュアー：4。その理由は？

対象者：正直、これ以上のものがあるのか分からない、というのが一番です。使い始めてから、鏡を見るのが嫌じゃなくなった。朝、顔を洗ってこれを塗ると「よし、今日もやるか」ってスイッチが入る感覚は、今の自分には欠かせないものですから。使い続けることで、40代になっても、同年代が「もう歳だから」って諦めていく中で、自分だけはシュツとした、清潔感のある広報担当でいたい。そのための先行投資だと思っています。

インタビュアー：40代を見据えた先行投資。……もし、次に他の美容液に興味を持つとしたら、どんなものが候補にあがりますか？

対象者：うーん……百貨店に入っているようなブランド、例えばクラランスとかディオールのメンズラインも、たまにネットの広告で見かけるので気にはなります。でも、今はまだ「アルティミューンの正解」を試している最中というか。別のものに変えて、もし今の「ハリ」がなくなったら怖いな、という気持ちの方が強いですね。

インタビュアー：今のハリを失うことへの懸念。……では最後に、このアルティミューンに対して、あるいはメーカーの資生堂に対して「もっとこうしてほしい」という要望や意見があれば、どんなことでも教えてください。

対象者：そうですね……さっき言った「残量が見えるようにしてほしい」というのもありますが、一番は、僕みたいな「美容初心者」の背中を、もっと押し続けてほしいということです。1万5千円の買い物って、男にとってはやっぱり勇気があるんですよ。だから、「高いけど、その価値があるんだ」っていう納得感を、もっと発信してほしい。たとえば、反町さんだけじゃなくて、もっと身近な、30代の働く男たちがこれを使って「自信を持てるようになった」というリアルなストーリーが見えると、もっと安心して使い続けられる気がします。

インタビュアー：働く男性たちのリアルなストーリー。……それが、使い続けるための「安心感」に繋がるのですね。

対象者：ええ。僕にとってこれは、ただ肌を綺麗にするための液じゃなくて、「自分を律している」という自信を買っているようなものですから。その価値を、メーカー側ももっと肯定してほしいなと思います。

インタビュアー：ちなみに、50mLだけでなく30mL(9,900円)という少し手が出しやすいサイズもありますよね。1万円を切るそちらのサイズは、検討の土俵に上がらなかったのでしょうか？

対象者：……あ、もちろんそれも店で並んでいるのを見ました。1万円を切るか切らないかって、心理的にはかなり大きな壁ですからね(苦笑)。でも、結果的には迷わず50mLを選びました。

インタビュアー：迷わず。その理由は？

対象者：さっきも言った通り、これは僕にとって「戦うための投資」なんです。中途半端に30mLを買って、「これ、いつなくなるかな」ってビクビクしながら使うのは、なんだか自分の覚悟も中途半端な気がして。それに、1mLあたりの単価を計算したら、やっぱり50mLの方が「得」じゃないですか。

インタビュアー：1mLあたりの単価。

対象者：ええ。公務員なので、無駄な支出は抑えたい(笑)。「これ1本で3ヶ月持つなら、1日あたり150円ちょっとか。だったらペットボトルのコーヒーを1本我慢すればいいだけだ」って自分を納得させたいんです。30mLで「お試し」するよりも、最初から一番いいスペックのものをしっかり使い切って、本当に肌が変わるか試してみたい。もしこれでダメなら、もう高級な美容液自体が自分には不要なんだ、と決着をつけたかったんですよね。

インタビュー：ご自身の中で、その「決着」をつけるための覚悟として、あえて大きい方を選んだ。

対象者：そうです。安い方を買って効果が出なかった時に、「やっぱり高い方じゃないとダメだったのかな」って後悔したくなかったんです。逃げ道を塞ぐ意味でも、50mL一択でした。